

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.80

2021.1

抗がん剤治療による脱毛とウィッグ(かつら) 貝塚市が医療用ウィッグ購入費用を補助

乳がん術後の薬物療法や再発後の治療ではしばしば抗がん剤が使用されます。抗がん剤の副作用のなかでも吐き気や嘔吐、あるいは白血球減少症などに対しては、それらを予防あるいは治療する「支持療法」が近年めざましく進歩してきました。ただ、昔も今も避けられないのが脱毛です。特に乳がんは女性の、それも往々にして若い世代に多いがんですので、脱毛は患者さんにとって切実な問題です。抗がん剤治療を始めるにあたっては、事前にウィッグ(かつら)を用意して準備万端の気分で治療に臨んでください。

■抗がん剤治療による脱毛

抗がん剤は、細胞の分裂が速いがん細胞を攻撃しますが、同時に正常細胞の中では分裂速度の速い毛母細胞(髪の毛のもとになる細胞)にもダメージを与えるために脱毛をきたします。

術前や術後の抗がん剤治療として使用されるアンストラサイクリン系薬剤(FECなど他剤と併用して使用)やタキサン系薬剤(ドセタキセルなど)ではほとんどの患者さんで脱毛は避けられません。他方、経口の抗がん剤など脱毛をきたさない抗がん剤もあります。また抗がん剤以外でも、分子標的治療薬などで脱毛が起きることはありえますが、さほどひどくはなりません。

抗がん剤治療が始まって2~3週間後から脱毛が始まり、治療終了後平均して3~4ヶ月で髪の毛が生え始めます。その後、ショートヘアの長さになるのに約1年位必要ですので、乳がん初期治療でウィッグが必要な期間は1~2年程度と置いていただければよいでしょう。

■ウィッグを選ぶにあたって

抗がん剤治療中も普段と変わらない日常生活を続けていくために、脱毛にそなえて治療前にウィッグの準備をお勧めしています。

ウィッグには、すぐ使える既製品と、1ヶ月程度かかるオーダー品があります。毛質(人毛、人工毛、混合毛)によって、手入れの方法が異なります。

当院では化学療法センターに何種類か展示していますので是非ご覧になってください。見た目だけでなく、かぶり心地も大切です。実際に試着してみてください。



■貝塚市の「がん患者に対する医療用ウィッグ購入費用補助制度」について

貝塚市では、抗がん剤治療の副作用で脱毛した方が医療用ウィッグを購入した際の費用を補助する制度を2020年4月に開始しました。貝塚市在住の方は是非この制度をご利用ください。

ご不明な点がございましたら化学療法センターにお問い合わせください。

また補助制度の概要は貝塚市ホームページの「がん患者に対する医療用ウィッグ購入費用補助制度について」をご覧ください。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

化学療法センター看護師 亀友美



KAZUKA